

# HOTeye

心と心のかよいう福祉の情報誌

ホットアイ

2022 Vol.111

- P1 **特集** 社会福祉事業所紹介  
利用者にも職員にもやさしい  
ICTケアサービス  
社会福祉法人 鳥取県厚生事業団  
特別養護老人ホーム「湯梨浜はごろも苑」
- P5 チャレンジ福祉の仕事  
社会福祉法人 鳥取県厚生事業団  
特別養護老人ホーム「湯梨浜はごろも苑」
- P6 福祉専門職の紹介  
“ありがとう”の言葉が胸に響いて【介護福祉士】
- P7 福祉人材センター情報  
福祉の職場で働きたい方と人材を求める  
事業所との橋渡しをしています
- P8 ボランティア・市民活動センター情報  
とっとりボランティアバンク登録団体紹介  
夢現の風
- P9 ボランティア・市民活動センター情報  
中浜地区各種団体連絡協議会  
高齢者・子ども・障がい者、  
みんなが“つながる居場所”づくり
- P11 ことぶき高齢者情報  
ニュースポーツ貸出用具紹介
- P12 ことぶき高齢者情報  
いきいきシニア
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

ソフトとハード面を織り交ぜたホスピタリティ

地域の方々の交流・活動の場として開放された「交流ホール」では、職員による「カフェはごろも」が定期的に関われ、会話や筆談で利用者とはふれあいます。

# 社会福祉法人 鳥取県厚生事業団 特別養護老人ホーム「湯梨浜はごろも苑」

昨年春、東伯郡湯梨浜町の東郷湖西側に位置する「はわい温泉」近くに

特別養護老人ホーム「湯梨浜はごろも苑」は開所しました。

倉吉市にあった特別養護老人ホーム「巖城はごろも苑」の老朽化にともない新築移転し、

名称も変更して、ICT(情報通信技術)システムを活用した

ユニットケアの先進的な介護サービス施設として生まれ変わりました。

また、運営方針の「地域福祉への貢献」のコンセプトからも、

地域住民の方々が活用できる多様な設備を整え、オープンな施設とするほか、

周辺地区と「緊急時相互協力協定」を結び、災害などの緊急時に

避難所とするなど、地域とのつながりを深める場ともなっています。

写真



コロナ禍での面会は、スタッフが付き添いガラス越しにスマートフォンを使ってのお孫さんの写真確認や会話が弾みます。

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

# 利用者にも職員にもやさしいICTケアサービス



添った安心・安全で、真心のこもった支援に努めていきたい」と話します。

## 「利用者の就寝状況の「見える化」で安全を

新築移転し、多床室から個室ユニットに変えることにより、特に夜勤職員の身体的・精神的負担が予測されることから導入したICT機器のひとつが、就寝状況を見守る「眠りセンサー」です。

個室化で入居者の就寝や離床状況などの把握が難しく、「見える化」を図るため、個々の状態に合わせて設定されたセンサーをベッドに設置し、睡眠・覚醒・起き上がり・離床の状態



ベッドの下に設置された、個々の入居者の状態に合わせてセットされた「眠りセンサー」

の変化から、呼吸数・心拍数などがパソコンやスマートフォンに通知され、リアルタイムで確認できることで、転落のリスク低減につながるなど、ヒヤリハットが減少しているとのこと。

その睡眠状況のデータは、利用者の体調の変化への気づきや、日中・夜間の生活サイクルの改善にも役立てられています。また職員にとっては、利用者の生活リズムが把握できることから、個々に合わせたタイムリーなケアサービスの提供と、体調の変化に早く気づくことで、異変の早期発見に繋がっているようです。

## 「すべての情報を一元化してケアの質を向上」

もうひとつのシステムが、携帯端末向け介護記録ソフト「ケアパレット」

特別養護老人ホーム  
 「湯梨浜はごるも苑」  
 としひで  
 塩 俊英  
 苑長

です。ナースコール受信から眠りセンサー受信、内外線電話の受信、利用者の食事量・水分量などをその場で入力した記録もスマホやパソコンに集約し、1台で4役を果たすことで情報の一元化を図り、情報共有と文書作成の負担を軽減しています。

利用者の居室など、パソコンの持ち込みがしにくい環境でも、携帯端末によって使う場所を選ばずに入力で

※ICTとは「Information and Communication Technology」の略称で、日本語では「情報通信技術」と訳されます。

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

きるため、業務の効率化や、利用者の見守りをしながらの入力もでき、ケアの質の向上に繋がっているとのことです。

これらのシステムの活用で、「昼夜が逆転していた利用者の眠りセンサーのデータを振り返り、ケース検討会などで要因を探り対応した」とことで、1カ月ほどで元の生活リズムに戻ることができました」と塩苑長は話します。

また、記録が紙ベースの時は、その都度メモを取り、記録用紙に書き写し、それを今度はパソコンでケース記録に打ち込む作業で、何度も書く、写すということが必要でしたが、スマホで音声入力も可能となり、パソコンがなくてもその場で記録ができるため、効率的で記録の充実にもつながるなど、ケアの充実と職員の負担



地域住民にも開かれた大会議室「はごろもホール」は、緊急時の避難所ともなり、隣に食品など災害時に必要な物資を常時蓄えている備蓄倉庫も設備。備蓄倉庫には、布団や食料品、発電機など多くの物資が備えられています。

軽減を実現しています。

## 地域の交流を育み、災害時には守る施設に

苑では、利用者の快

適な暮らしと職員の働きやすさに加え、地域貢献をコンセプトとした「交流ホール」を備え、地域の方々の交流活動の集い場として、年齢を問わず親しみ利用してもらええる施設をめざしています。

例えば、小学生が放課後に立ち寄って宿題ができるところ、子育て中の母親同士の交流の場、高齢者のサロン活動の場など、様々な場面を思い浮かべて設計され、会食もできるようにキッチンも完備しています。また、移転前の苑は山と川に挟まれ、土砂災害警戒区域・浸水区域に



介護記録ソフト「ケアパレット」は、入居者の就寝状況をいつでも確認できます。(写真下)  
また、利用者のそばでバイタルチェックや食事・水分量などが記録できます。(写真左上)  
そして、ナースコールなど、すべての職員がスマホを携帯することで入居者情報を共有し、介護支援、ターミナルケアに役立っています。(写真右上)

立地し、大型台風襲来の際には利用者の避難を余儀なくされてきました。その経験から地域福祉への貢献として、周辺地区と「緊急時相互協力協定」を結び、地元避難者を受け入れることになっています。

ふだんは研修会などに幅広く利用できる大会議室「はごろもホール」は、緊急時には避難所となり、備蓄食品などの災害時に必要な物資を常時

備蓄する倉庫を設備し、地域のセーフティネットの役割を果たします。

この協定は、上浅津地区とはわい温泉地区と締結し、苑の役割として①地元住民の被災者及び避難者の受け入れ ②応急対策及び復旧復興に必要な物資、資機材の提供。そして地域住民の方には①火災及び大規模災害が発生した場合の入居者救助の協力と、相互協力体制を築いています。



## 利用者と職員を結ぶ ICTケアシステム

システムは「正確な記録と記録時間の短縮化により、ひとつのケースにそれぞれの部署からかかわったことや、その時の様子などをリアルタイムに記録し、職員が情報共有できることが大きな利点です」と次長兼介護主幹の倉繁操さんは話します。

倉繁さんが法人に入職した当初、ある利用者から「大変な仕事だけど楽しいか？」と尋ねられ、仕方なくしているとみられたようで、少し落ち込みながら考えたと話します。そして「自分が心を開くことで相手も心を開いてくれることが信頼関係の第一歩だと気づきました。それから、は、親切、丁寧、笑顔100%を胸に取り組んできましたが、システムは丁寧な介護を補ってくれるようです」と、倉繁さんは振り返ります。



次長兼介護主幹の倉繁 操さん

介護主幹の竹信恵子さんは、「個々のご利用者を理解し、その人らしい暮らしを支えていくために、言葉以外の非言語コミュニケーションも大切にしています。焦らず適切な距離感をとるなど、利用者のペースや状況を理解し、合わせていくことが大切だと考えています」と話します。

そしてシステムは「日々の記録などの事務作業を削減・効率化し、介護職員の負担を軽減でき、介護サービスの時間が多く持てて効果的です」と話します。

また、皮膚の状態などを目視だけでなく、スマホで写真や動画を撮って記録することで、文章では伝わらないことも、その映像を共有することで状態が把握できるので、とても便利だと実感しています。

入居者の状態は一人ひとり異なり、その都度適切な支援が求められます。精神的余裕がなく、意見が衝突したりネガティブな感情をぶつけられることもあります。しかし、そんな悩みを一人で抱えるのではなく、周りの職員や他職種と連携し、チームで難しい支援内容を達成できることは、スタッフの成長にも繋がります。「家のことも仕事も大変な時があ



介護主幹の竹信 恵子さん

るけなあ、無理せんがええよ」と、竹信さんが利用者から掛けられた言葉です。いくらシステム化で便利になっても、介護はそこに「心」がなくてはなりません。湯梨浜は「ろも苑」は、利用者と職員がシステムで結ばれ、ホスピタリティを形成しているように思えました。



セントラルキッチンから毎日配送されてくる食事を「コークックチル方式」で温め、カートでユニットごとに配膳することで、厨房の労力も軽減されています。

**【概要】**

- 所在地／鳥取県東伯郡湯梨浜町上浅津407
- 建設日／2021(令和3)年3月14日
- 運営主体／社会福祉法人 鳥取県厚生事業団
- 職員数／施設長1名、介護支援専門員2名、生活相談員2名、介護職員81名、看護師7名、機能訓練指導員2名、管理栄養士1名、事務職員2名、調理員4名、警備員2名、パート職員19名、嘱託医師2名(合計105名)
- 利用定員／120名(10名×12区外全個室)
- 利用相談窓口／当該施設、運営主体、各市町村窓口

# Challenge チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人 鳥取県厚生事業団  
特別養護老人ホーム「湯梨浜はごろも苑」

福祉分野の質的変化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

## その人らしく生きるための支援ができる仕事

作業療法士 月森 健人さん

特養「湯梨浜はごろも苑」で作業療法士(OT)として機能訓練指導員を務める月森健人さんは、専門学校生時代の実習で、病院の医師が治療のみならず車椅子の修理・調整から利用者の家屋調査、福祉用具の選定までをしている姿に憧れて福祉職場をめざし、今その姿を追っています。

苑では、OTなどがリハビリから心身機能評価などにかかわり、介護士、看護師、相談員などの多職種が連携して「個別機能訓練計画書」を作成したうえで、利用者一人ひとりの機能維持が図られるように支援をしています。

その中で月森さんは、利用者がその人らしく生活するためには、どのような支援が必要かを常に重視しており、介護士から「〇〇さん、上手



に食事

出ています」「食事のこぼしが少なくなりまし

た」「姿勢が崩れにくくなりました」など、良い報告が聞かれたときにやり甲斐を感じると話します。

また「毎朝、訓練室に来所して」「ここで歩くのが生きがいです」と言う利用者や、「これをしていないと調子が悪い」と言う利用者の活き活きとした表情と、自然にこぼれる笑顔を見られたときに、「この仕事に就いてよかったと思えます」と笑顔を見せます。

そして、これからも厚生事業団の職員として、「どの施設でケアや機能訓練を受けても、同じ水準のサービスが受けられるよう、ほかの施設の機能訓練指導員と課題解決などに対して連携を図りながら、法人の機能訓練部門を支えていきたいです」と、目を輝かせる月森さんに意欲を感じます。

機能訓練指導員は、医師と連携しながら社会復帰を支援する二面も持つことから、「その人らしく生きるための支援ができる仕事」だと、その職にあることに自信と誇りを持って利用者に向き合っています。

介護士として働く母親の姿を見ながら育った川崎彩加さんは、「介護士になりたいという強い思いがあったわけではないのですが、進路を選択する際、自然と介護の道へ向かっていました」と笑顔を見せます。

介護福祉士、介護支援専門員の資格を持ち、介護職員として勤めていましたが、今年から特養「湯梨浜はごろも苑」で、生活相談員として、入所退所の相談から手続き、家族や関係機関との連絡調整、利用者や家族からの相談苦情受付、利用料の収受など、幅広く生活支援をしています。

介護現場で働き始めた頃は、なんて忍耐力が必要な仕事なんだと思いつつながら毎日仕事をしていたという川崎さんですが、その考えは「自分自身の未熟さ故にそのように感じていただけだ」と気づきました。そして、気長に利用者の想いに寄り添うなど、介護の本質を学び実践していくうちに「こんな、素敵な仕事、ほかにない」と感じるようになったと話します。

また「介護の現場にいた時は、施設での利用者しか知らないことが多かったのですが、生活相談員となって、その回りの人たちのことも知り、利用者より深く理解することができ



るようになりました」と川崎さん。

「利用者の今までの生活歴の中で、築いてきた人や物との繋がりを知り、その繋がりの一部であっても継続できるように支援できるところに、この仕事の魅力があると感じています」と、素敵な仕事の一端が窺えます。

生活相談員として1年目。「まだまだ知識が足りず、日々自分の未熟さを感じていますが、入居者と家族が一緒に笑い合っている姿を見ると嬉しくなります」と話す川崎さんは、「あなたがいれば大丈夫」と感じてもらえるような生活相談員を目指して日々邁進しています。

生活相談員 川崎 彩加さん

実践の中で「こんなに素敵な仕事はない」と思える

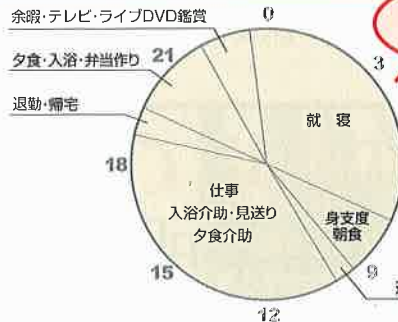


# 福祉専門職の紹介 介護福祉士

“ありがとう”の言葉が胸に響いて



ある一日の Work Style



社会福祉法人 鳥取県厚生事業団  
特別養護老人ホーム「湯梨浜はごろも苑」  
もりやま  
介護福祉士 森山 なつみさん

《介護福祉士》は、介護のために必要な知識やスキルを認める唯一の国家資格です。「ケアワーカー」とも呼ばれ、高齢者や障がいのある方が利用する社会福祉施設などで、要介護者への幅広いサポートを行います。

その支援は、食事・入浴・排泄などを補助する「身体介護」、身の回りの整理整頓などをサポートする「生活援助」、介護者の心理的なケ

アを行う「メンタルケア」、介護者とその家族に対してアドバイスをする「相談・助言」、介護現場のスタッフをまとめる「マネジメント」で、介護の「プロ」として介護者を支え、介護職員に指導やアドバイスを行うリーダー的存在です。

## 現在の仕事の内容を具体的に教えてください

主に、食事・入浴・排泄などの介助をしながら、ティータイムには、利用者の方々の好みを把握した飲み物の提供やコール対応などを、常に利用者とのコミュニケーションを取りながら支援に取り組んでいます。

## 仕事のやりがい、魅力などを教えてください

利用者が生活をする様々な場面で、些細なことでも「ありがとう」と笑顔で感謝の言葉をいただけることが胸に響き、やりがいに繋がっています。利用者の生活の場にあらずさり、その方々の側に寄り添い、日常生活の支援ができることが介護福祉士としてのやり甲斐であり、魅力だと感じています。

## 「この仕事に就いて良かった」と思うのはどんな時ですか？

入職して1年目にお手伝いをした利用者が、私が働いて2年目の頃に、「よう頑張つたられるな。成長したくなる」と言ってくれました。介護福祉士として3年目で、少しずつ仕事に慣れてはきましたが、経験が浅いために自信を無くすこともある中で、利用者の方からそんな言葉をいただき、とても嬉しかったです。信頼してもらえるようにもっと頑張ろうと思いました。

## 仕事をするうえで大切にしていることは、どのようなことですか？

利用者のみならず誰に対してもですが、どんな時でも自分から笑



顔で挨拶をするように意識しています。また、伝えたいことが利用者の方によく伝わるように、目線を合わせゆっくりと話すよう心がけています。



## 休日は何をして過ごしていますか？

海沿いをドライブするのが好きで、休日の天気の良い日にはよく出かけます。家族は、父母祖母妹の3世代5人暮らしで、みんな仲良く、和気あいあいと生活をしています。特に妹とは好みがか似ているので、一緒に買い物に出かけることが多いです。

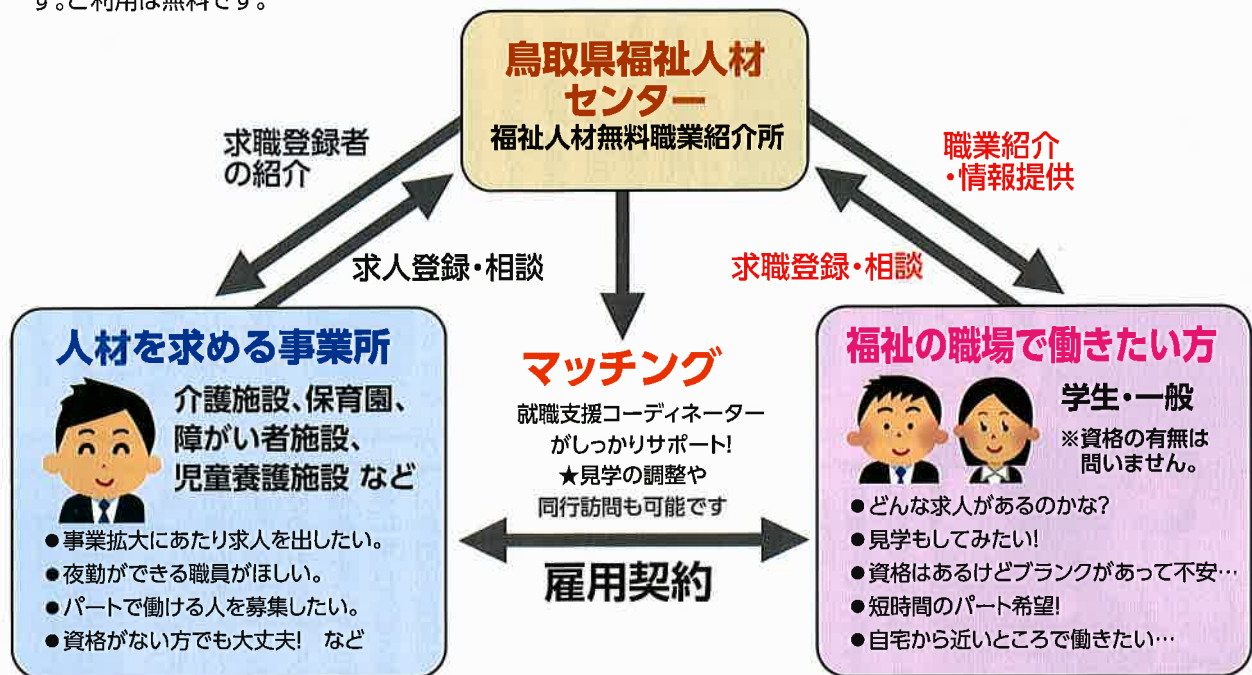
## 鳥取県福祉人材センターのご案内

# 福祉の職場で働きたい方と 人材を求める事業所との橋渡しをしています

鳥取県福祉人材センターは、職業安定法に基づく無料職業紹介事業（厚生労働大臣許可）をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-ム-010001】

### ■無料職業紹介事業

福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行ないます。また、人材を求める事業所には、求人条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。



### 福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ



### 人材を求める事業所への就業あっせんの流れ



まずはご相談ください!

鳥取県福祉人材センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 TEL (0857) 59-6336 FAX (0857) 59-6341

【開設日】 月～金 8:30～17:00 (祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人登録・求人票の閲覧ができます。

FUKUSHI-JOB-SEARCH  
**福祉のお仕事**

福祉のお仕事

検索





## とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

むげん  
夢現の風

「とっとりボランティアバンク」はボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援を中心としたボランティア活動や災害ボランティア活動情報を速やかに入手し、発信しています。

その中でも、このコーナーはボランティアとともに活動したいという登録団体の活動を紹介しています。

[ホームページ] <https://www.torivc.jp>



メンバーの皆さん



趣味から繋ぐ人材集めに尽力する安藤 清子副会長(右)と切り絵指導の大江さん

江戸時代、伯耆街道沿いの宿場町として、又、昭和30年頃には多くの商店等が軒を連ね繁栄していた面影が残る町並みの一角に「きないや」があります。月に2回、地域の高齢者等誰もが歩いて気軽に集まれるサロン(きないや)カ

賑わいを取り戻し  
住民同士の顔が見える町に

夢現の風は住民有志が集まり、「閑散とした町の賑わいと笑顔を取り戻し、その名を全国に知られるようになりたい」との希望を持ち、平成29年に発足しました。琴浦町八橋の青果店だった空き店舗を改装した交流ステーション「きないや」を拠点に人と人の繋がりを大切に活動に取り組んでいます。また、地域の事をほとんど知らない地元の高齢生達に先人たちが残した伝統と知恵を伝え、「故郷の八橋っていいなあ」と思ってもらえる郷土愛の溢れる若者を育てていくことを大きな目標に交流を続けています。

## 郷土愛を育み、人との繋がりを大切に

フェと買い物支援としてのミニ市場やイベント等が開催されています。



会長の澤 泰治郎さん

澤泰治郎会長は「この場所をもともと住田幸保前会長と15名の有志がお互いの趣味を楽しもうと『気楽庵』として集っていたのが始まり。そして、この町にかつての賑やかさを取り戻し、誰もが遠慮せず集まれる場所にしたい」との思いが募り「きないや」になった。ここに来るだけでも楽しいと思ってもらえる場所があることで、高齢者の経験豊かな知恵が集まり、仲間との交流を通して元気になっている」と住民同士の顔が見える日常的な付き合いの復活に期待を込めています。

地域に欠かせない集いの場  
(交流の場からの地域づくり)

「きないや」の開所当時から通っている足立富子さんは「年々と視力が弱くなり、通うことをあきらめかけた時、孫の河上央美ちゃん(6歳)と一緒に行く」と手を繋いでくれた。今もこうして通い続けていられるのは、孫の優しい気持ちといつも気にかけてくれる皆さんの「おかげ」と感謝を伝えます。

また、地元有線放送局の番組で「夢現

の風」の紹介を見た川崎春子さんは「ここはふうと気軽に立ち寄り、いろいろな情報交換や何気ない雑談を交わす事がとても楽しい。誰かに会えて、一人ひとりが自分らしく地域の中で安心して過ごせている」と実感しています。さらに趣味で切り絵の指導している大江恵美子さんは「ここに来て皆さんとお話できることが一番のストレス解消! 気が合う人が多く、楽しく元気になるのが良い」と満面の笑みを浮かべています。

住民主体の新たな  
居場所誕生を期待して

澤会長は体力面から移動範囲も制限される高齢者は家に引きこもり、認知症等のリスクが高くなると心配しています。「なるべく歩いて行ける所に居場所があると、高齢者はメリハリのある生活が送れる。顔見知りが集まれば古き良き日に思いを馳せながら楽しい時間を過ごせ、笑顔が溢れる。それが気力感や連帯感を生み、地域が元気になっている」と住民同士が助け合い、支え合っていく事の大切さを胸に抱きながら、将来的には他の地域に「きないや」をモデルケースとした新たな居場所の誕生に期待を膨らませています。

夢現の風 会長／澤 泰治郎

【問合せ先】

鳥取県東伯耆琴浦町八橋七四八二

TEL(0859)1041-0330

【フェイスブック】

<https://www.facebook.com/mugenkaze848>

【Eメール】

[mugenkaze848@gmail.com](mailto:mugenkaze848@gmail.com)

## 中浜地区各種団体連絡協議会

# 高齢者・子ども・障がい者、 みんながつながる居場所づくり

境港市中浜地区の自治会・婦人会老人クラブなど40団体で構成される「中浜地区各種団体連絡協議会」は、設立32年目を迎えます。それまで初春の集いを行ってききましたが、もっとこの会を活かすべく再検討を重ねられ、昨年、中浜公民館でカフェのオープンに至りました。そこは、困りごとを聞き、助け合うマッチングの場としても生かされ、参加者たちの交流の場「居場所」として地域のつながりを深め、年代や障がいなどの隔たりを越えた助け合いの心を育む場として、地域に根ざしてつくっていくことを目指しています。



協議会会長の木村幹夫さん

**住んでいて良かったと言えるまちづくりを**

1990(平成2)年に立ち上げられた協議会は、当初「初春の集い」のみの開催でした。その席の挨拶で協議会の木村幹夫会長が「中浜地区に住んでいて良かったと言えるまちづくりをしよう」と発言したのが、実質的な協議会活動の始まりでした。

それまでアドバイザーとして参加していた境港市社会福祉協議会の生活支援コーディネーター志賀智子さん

んは、その言葉が胸に響き「どうしたら実現できるか一緒に考えてみませんか」と呼応しました。

その後、津波避難訓練の活動案が浮上し、第二中学校区地域学校コーディネーターと志賀さんが、協議会を活用・連携して実施できるように合意形成を図り実現しました。そのことから「もっとこの会を活用してはどうか」という積極的な発言があり、それらに共鳴する会員も多く、会の方向性から規約・予算などを検討して事業計画を作成し、チームとなろうと、改



境港市社協の生活支援コーディネーター志賀 智子さん

めて次のステップを踏み出しました。

### 「公民館deカフェ」で 広がるふれあいの輪

中浜地区でも高齢者の引きこもりや孤立が進む中で、木村会長は実際に高齢者の家に出かけて話を聞いてみると、みんなとふれあいたいと思っている人が多いことがわかりました。そのこときっかけで「公民館deカフェ」を立ち上げ、昨年5月にオープンの運びとなりました。

毎月第1・3火曜日の午前9時30分から11時30分まで開かれるカフェは、コーヒー・紅茶にお菓子付きで100円(小学生以下は無料)で、運営スタッフは各団体からのボランティアなどが務めます。

木村会長は「カフェを楽しみに待っている人たちがいることがうれ

しい。参加者は集まって話をするのが楽しみで、その思いに伝えられる喜びは大きいです」と笑顔を見せます。

カフェでは「12月のカフェでクリスマスソングを演奏したい。やってもいいですか?」との問い合わせがあり、サプライズでクリスマス会を開いたり、身体障がいのある人が「私たちのことをもっと知ってほしい。へあいサポート研修会をカフェでしてほしい」との要望があり、開催したところ、46名の参加があるなど、さまざまな想いを受け入れられる寛容で柔軟なスタンスです。

### 自分から困りごとや 想いを発信できる場所に

カフェは困りごととのマッチング場所にもなっています。2回目の



公民館deカフェの後に、境港市コミュニティバスで竹内団地にある大型ショッピングセンター「PLANT-5」に行き、買物支援をしています。

鳥取県ボラセン  
キャラクター  
「はーちゃん」



去る9月に開催された「津波避難訓練事前学習」では、防災士でもある協議会会長の木村幹夫さんが小学校と中学校で講師を務めました。



庭の木の枝切りの依頼を受け、手入りの行届いたノコギリで枝を落とすカフェの参加者

カフェでは早速「枝を切ってほしい」と言うお願いがありますが、お手伝いいただけませんか？」と聞かけると、すんなり決まり即時対応してもらいました。  
3回目のカフェでは「買いたい物に連れて行ってほしい」とお願いがあり、これもすばらしいですよ」と手が挙がり実行。それをきっかけに

年に数回、境港市の「はまるーぱス」に乗って買物支援に出かけるようになりました。  
カフェにも買物支援にも参加している大塚志穂さんは「お婆ちゃんついで育ち、そのお婆ちゃんにできなかったことをしています。まず高齢者を引きこもらせないことが大切だと思います」と話します。



大塚 志穂さん

地域にどんな人がいるのか。カフェや子どもたちとの交流、津波避難訓練などの行事を通して顔見知りを増やし、人と人、人と地域をつなぎ、助け合いの輪を広げる活動につなぐ。その切り口はどこにでもあると教えられます。

**仲間がいるから、  
できる。つながり。づくり**

役員、メンバー、ボランティア、かわるすべての人との関係を大切にしていきたい。そして、ここに住んでいて良かったと言えるまちづくりに取り組み、住民に同じ思いを持ってもらいたい。と話す木村

会長は「人と人、人と地域が点と点で結ばれ、点が線となり、面になるように広がりをもせていきたい。そのために各団体がチームとなり、想いをひとつにして団結力を発揮していきたい」と夢を描いています。  
近年のコロナ禍でさらに住民同士のつながりが希薄になり、高齢者も障がい者も閉じこもりがちです。カフェはその人たちの話を聞いたり安否確認もでき、みんながつながる場にもなります。

ボランティアで参加している中浜地区民生児童委員協議会の永見一平さんは「日頃から地区住民と話していますが、このカフェでは広い地域の情報が聞ける場ともなります。そして何よりも、共助の心を培う機会でもありますね」と話します。  
助け合いながら住み慣れた地域で、安心・安全に暮らし続けられるように、みんながつながってほしい。心寄り添い、お互いに気にかけてほしい。そんな願いを抱く志穂さんは「これからも、住んでいて良かったと言えるまちづくりの推進をサポートしていきたいです。それをより多くの方に理解してもらい、困っ



コロナ禍で久しぶりの開催となった9月のカフェは、思いもよらない30人近い多くの参加者でにぎわいました。

た時にはお互いに助け合っている地域にしたいです」と、熱い想いを感ぜさせます。



中浜地区民生児童委員協議会会長の永見 一平さん

中浜地区各種団体連絡協議会  
会長 木村 幹夫  
問合せ先  
中浜公民館  
鳥取県境港市財ノ木町668  
電話0859-4510207

## ニュースポーツ貸出用具紹介

子どもからお年寄りまで、また、障がいの有無に関わらず気軽に楽しむことができるニュースポーツ。利用される方の体力などに合わせてルールを柔軟に変更し楽しむことができ、全国各地で盛んに行われています。

鳥取県社会福祉協議会でも、様々なニュースポーツ用具の貸し出しを行っており、老人福祉施設でのレクリエーション、地域での行事や学校行事など世代を問わずご利用いただいています。その中で、最近貸出回数が多く人気の「スカットボール」と「ディスクゲッター9」と「ポッチャ」を紹介します。

### スカットボール



スカットボールは、マットの上でスカット台を乗せ、ボールをスティックで打ってスカット台の得点穴にボールを入れる競技です。先攻は赤球、後攻は白球を使いスタートラインからスティックでスカット台の穴に向かってボールを打ち入れ、赤、白それぞれの合計点の多いチームが勝ちとなります。通常は立って行いますが、座ったままでもプレーすることが出来るため、足の不自由な方でも楽しむことができます。

### ディスクゲッター9



ディスクゲッター9は、フライングディスクを投げるに当てるゲームです。的(パネル)は9枚あり、ルールは人数と時間に合わせて決めます。12枚のディスクを投げて何枚パネルをあたることが出来るかを競ったり、チームの中で交代に投げ、タテ・ヨコ・ナメいづれか1列パネルがあいた方が勝ち、5枚のディスクを投げ、あいたパネルの数字を得点とし合計を競ったりするなど、様々な楽しみ方ができます。ルールも簡単なため、子どもから高齢者まで、幅広く利用できます。

### ポッチャ



パラリンピックの公式種目にもなっているポッチャは、障がいの有無に関わらず、誰でも楽しむことができる競技で、問い合わせが年々増えてきているため今年度購入しました。ジャックボールという白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。相手のボールを弾いてジャックボールから離したり、自分のボールをジャックボールに当てて位置を変えたりすることが出来るため、戦術や戦略が非常に重要なスポーツです。

他にも「カラーリング」や「ラダーゲッター」、「ストライクボーリング」などの貸し出しをしております。詳しくは鳥取県社会福祉協議会のホームページをご覧ください。利用を希望される方は、事前に貸出状況をお問い合わせください。



ラダーゲッター



カラーリング

ストライクボーリング

#### 問合せ先

鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部

0859-109-0000

ホームページ

[https://www.tottori-wel.or.jp/common/rental\\_top/newsports/](https://www.tottori-wel.or.jp/common/rental_top/newsports/)

## 趣味を求め人生を楽しむ

# いきいきシニア

ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵高齢者を同世代のことぶきレポーターが取材をします。「シニア」の「シニア」によるシリーズ。地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなく紹介します。



池田 博晴さん

倉吉市にお住まいで、地域の活動、趣味の活動と、多忙な日々を過ごしの池田博晴さん(82歳)に、今活動を頑張っておられるダンススタジオでお話を伺いました。

池田さんは、長年勤めた職場を定年退職され、これからの人生を考えていたとき、当時の鳥取県民カレッジの高齢者大学校を知り受講する事にしました。この講座は、60歳以上の方を対象とし、知識、技

能を高め広く一般教養を学ぶ講座で、その中で多くの受講生と交わり、多種の講座の中で池田さんは健康づくり科を選ばれました。30名から40名くらいのクラスで、真面目で前向きな池田さんは早速委員長に選ばれたそうです。役割を受け持つことに少々戸惑いながらも、1年間頑張ることに意欲を燃やされました。健康講座は食品、栄養、料理の勉強や、グラウンドゴルフ、ターゲットボードゴルフ、ダンス等多数のスポーツも体験したとおっしゃいました。また、合同講座では県内各地に出向き、様々な研修もあって多くのことを学び仲間も出来、有意義なもので、この講座のお陰で今の活動に至っているそうです。池田さんはダンス愛好家で、今お話を伺っているこのダンススタジオの責任者をしてもらえます。

ダンスを始めたきっかけは講座で受けた社交ダンス。入門して間もないある日のこと、講座で覚えたばかりのダンスで東部地区の高齢者施設に慰問することになりました。数回の練習で不安な気持ちを持ちながら、シルバ、ブルース、ワルツ等を発表しました。会場は豊の大広間で、初めてダンスをする入居者の方々とやさしく手を取り合い、踊っているうちに笑顔になり、真心に戻り鼻歌や若い頃の歌を口ずさんだりと和やかな雰囲気盛り上がりまし



ダンススタジオの風景

た。自分たちのダンスで大丈夫だっただろうかとても心配でしたが、皆さんの様子や帰りに玄関まで見送ってくださった姿を見て「ダンスでこんなに楽しい気持ちになって喜んでくださったのだと驚き、その感動は今でも忘れられません」と話される池田さんが印象的でした。

この素晴らしい経験がきっかけで、講座終了後も仲間と共に楽しみながら活動をずっと続け、今では気軽に誰もが集まれる所になってきたそうです。池田さんは、パーティーでいろいろなダンスを覚えたり、先生方に聞いたり意欲的に取り組まれ、スタジオに集う人々に心地よい場を提供されています。

自分たちの活動は「教室」ではなく興味のある人が誰でも気楽に立ち寄れる「場」を作る事で、初めての人や、リハビリの人、お話ししたい人がここにきて、ダンスで体を動かして仲間の輪を広げて、豊かな高齢

者としての生きがいが生まれる場所にしたと力を込められます。「仲間の中には、病後の回復のためにリハビリとしてここに通い、ダンスをすることで元気が出る」と頑張っていて来られる方もあり嬉しいと話してくださいました。

この日も多くの愛好者でにぎわいいメンバーの方々が良い笑顔で「ここは良い場所です週3回の開催日には時間が取れば毎回来たい」とおっしゃっていました。皆さん本当に明るく元気で充実した時間を過ごしておられ、良い雰囲気が伝わってきて信頼される池田さんの人柄が伺えました。

「人が笑顔になり、楽しめる場所」が長く続いている池田さんのボランティア活動に感心しました。人生百年時代と言われている現在、高齢者がちよとした時に気軽に外かけて体を動かし、会話をし、気分転換をして日常に戻る事ができたら幸せですね。



取材を終えて一言  
米田 睦栄さん(倉吉市)

溢れる笑顔でいろいろな話をしてくださる本当に心優しい池田さんでした。これからも充実したシニアライフで皆さんを楽しませてください。

## 福祉の就職フェア&ガイダンス2023春 開催決定!

社会福祉施設等の職場に就職を希望する人や関心のある人、社会福祉職場への転職を希望している人等を対象に、社会福祉事業を運営する事業所等の人事担当者と採用に関する情報交換できる場を設け、また、社会福祉職場の種類や資格等に関する各種相談コーナーなどを設置することで、福祉人材の確保推進と就職支援を目的に開催します。

〈東部会場〉令和5年3月12日(日)

13:15~16:00(予定)

県立福祉人材研修センター ホール(鳥取市伏野1729-5)

〈西部会場〉令和5年3月19日(日)

13:15~16:00(予定)

米子市(調整中)

〈お問い合わせ〉福祉人材部 TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

参加は一般・学生を  
問わず歓迎します。  
事業所の話を聞きに  
ぜひおいでください!

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和4年度

# ボランティア活動保険

商品パンフレットは  
コチラ  
(ふくしの保険ホームページ)



### 保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	【新設】特定感染症 重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円			
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額		6,500円			
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円		
		外来の手術		32,500円		
	通院保険金日額		4,000円			
	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償		
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷		×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)			
年間保険料			350円	500円	550円	

\*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

〈基本プランに加入される方へ〉

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますとより安心してボランティア活動に参加いただけます。



### ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

### 送迎サービス補償

(傷害保険)

### 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

#### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事  
保険会社〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL:03(3349)5137  
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

#### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667  
受付時間:平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

## 鳥取県福祉研究学会第16回研究発表会 研究発表募集中

### 【学会からのメッセージ】

何度も試行錯誤を重ね、ようやく生み出される成果があります。少し視点を変えるだけで思いがけない発見をすることもあります。

私たちは、皆さんのこうした努力を応援し、専門性やノウハウを共有して、鳥取地域の福祉社会の発展向上を図りたいと思っています。

研究発表は、社会福祉に関わる活動、研究等を行っている方が日頃からの成果を発表する場です。また、それは「自らを試し、自らを磨くこと」に他なりません。

皆さんの意欲的なチャレンジをお待ちしています!!

**募集期間: 令和4年 8月1日(月)～令和4年 12月16日(金)**

### 1 発表対象者

鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している者、福祉に関する調査研究をしている者、その他福祉に関心を持つ団体・個人

### 2 募集内容

口述発表とポスター発表の2種類あります。※既に職域・職能団体の研究・研修会で発表済みの内容についても対象です。(県内外を問わず)研究及び発表にあたっては、鳥取県福祉研究学会研究倫理要綱を遵守してください。

<https://www.tottori-wel.or.jp/common/gakkai/>

- (1) 口述発表(奨励賞の該当区分)  
分野別の発表を募集します。

No.	分野	研究発表例
1	高齢者福祉(施設系)	介護、高齢者虐待防止、認知症ケア、地域密着サービス、生きがい対策等
2	高齢者福祉(在宅系)	
3	障がい児・者福祉	生活介護、生活自立訓練、就労支援、社会参加促進等
4	児童福祉	児童養護、保育、情緒発達支援、母子・父子家庭支援、児童虐待・DV防止等
5	地域福祉	地域福祉計画、住民福祉活動、福祉教育、ボランティア等
6	その他社会福祉領域	共生型ホーム、生活保護、成年後見、権利擁護、企業CSR、食育等

- (2) ポスター発表(奨励賞の非該当区分)  
特に分野を分けての募集はしません。

### 3 研究発表会

開催日: **令和5年 2月25日(土)** 10:20～15:05 (予定)

会場: 鳥取看護大学・鳥取短期大学 (倉吉市福庭854 電話0858-27-2800)

### ●お問合せ・申込み先

福祉人材部(鳥取県福祉研究学会事務局) TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

当日は一般の方の参加も歓迎します。発表をぜひ聞きにおいでください!

# HOTeyeギャラリー

## NPO法人 ねっこ(障がい者就労継続支援B型事業所) 作品紹介



Y.T作「何かいいことありそうだ」 サイズ:W(60)×D(6)×H(40)

### 山川方式「賀壽翁彫り」作品

NPO法人ねっこ作業所では障がいのあるなしにかかわらず、人との触れ合い支えあう心を大切に持ち続けたい。心のバリアフリーを念頭に誰もが笑顔であり続けられる作業所を目指しています。



「プランター:汽車」 サイズ:W(30)×D(18)×H(19)



作業風景



S.Y作「一生笑顔で」  
サイズ:W(44)×D(6)×H(33)



「ミニ椅子」  
サイズ:W(15)×D(17)×H(25)  
※サイズ:W(横)×D(幅)×H(高さ)

#### 【作品について】

日本画家 山川賀壽雄先生の御指導のもと山川方式「賀壽翁彫り」\*に挑戦し、板の焼き加工や木目を生かした加工を施した作品を製作しています。また、鳥取県産木材を使用したオリジナルの木製品(プランターなど)やオーダーメイドの作品を一つずつ時間をかけて製作しています。

\*賀壽翁彫りは手ノミ、電動ノミを使って、ジグソーで切り込んだ文字の輪郭を浮かび上がらせる技法。

## 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)  
URL <https://www.tottori-wel.or.jp> e-mail [soumu@tottori-wel.or.jp](mailto:soumu@tottori-wel.or.jp)

福祉人材の  
求人・求職  
の窓口です

### 鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341  
URL [https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/shigoto\\_top/](https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/shigoto_top/)  
e-mail [jinzai@tottori-wel.or.jp](mailto:jinzai@tottori-wel.or.jp)

ボランティア活動の  
幅を広げる  
活動を応援します

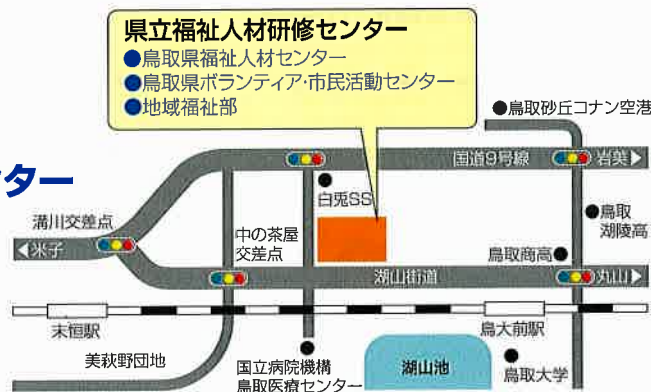
### 鳥取県ボランティア・市民活動センター

TEL.0857-59-6344 FAX.0857-59-6340  
URL [https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/vol\\_top/](https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/vol_top/)  
e-mail [vc@tottori-wel.or.jp](mailto:vc@tottori-wel.or.jp)

元気な高齢者の  
生きがい・社会貢献  
を支援します

### 明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340  
URL <https://www.tottori-wel.or.jp/chiki/kotobuki/>  
e-mail [kototori@tottori-wel.or.jp](mailto:kototori@tottori-wel.or.jp)



本誌について、また、福祉に関することについて  
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。



鳥取県男女共同参画推進企業